

■教育学科（中等教育専攻）カリキュラムマップ

教育学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

教育学科では、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

- （１）確実な知識・理解・技能を有し、広い視野を持ち高度な専門性を備え、実践的な指導力を身に付けた学生
- ① 乳幼児・児童・生徒理解：乳幼児・児童・生徒一人一人の発達の特徴を理解し、適切に支援できる知識と能力を備えている。
 - ② 確実な知識・理解・技能：教育学の基礎的な知識を有し、「考える楽しさ」「学ぶ喜び」を育てる専門職として、学んだ知識・技能を高め続けようとする研究心や意欲を備えている。
 - ③ 実践的な指導力：学んだ諸能力を保育・教育現場で効果的かつ柔軟に発揮できる実践的な指導力を備えている。
 - ④ 課題解決能力：教育活動などにおける課題を把握し、その課題解決に必要な情報の収集・分析・整理をし、その課題の解決ができる。
 - ⑤ ICT活用能力：情報コミュニケーション技術などを用い、情報収集・分析・プレゼンテーションを適切に行うことができる。
- （２）教育に対する強い使命感と責任感をもち、豊かな人間性を備えた学生
- ⑥ 教育に対する使命感と責任感、愛情：教育に対する強い使命感と責任感をもち、愛情を持って入場時・児童・生徒に接することができる。
 - ⑦ 健康な心身と豊かな人間性：心身の健康の大切さを理解し、豊かな人間性に基づいた教育活動を展開できる。
 - ⑧ 自らの実践に対する省察：自らの「学び」を土台として、自ら考えたことや実践したことについて省察し、新たな課題に立ち向かう柔軟さや粘り強さを備えている。
 - ⑨ コミュニケーション能力、チームワーク：連携、協働の大切さを理解し、乳幼児・児童・生徒ならびに、地域住民や保護者、教職員と連携し、自分と異なる考えをもつ人とも互いに尊重しつつ、教育課題などにチームとして取り組むことができる。
 - ⑩ 道徳性と倫理観、社会性：倫理、道徳に関する知識と技能を踏まえ、自らの良心や社会の規範やルールに従って行動し、人々の幸せや地域・社会の発展のために貢献できる。

科目分類・科目名称	主 題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要 ○重要 △望ましい)											
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
専 門 基 礎 科 目	教育学概論B	公教育の歴史と課題	1. 公教育制度についての基本的原理を理解し説明できる。 2. 日本の公教育制度についての知識を説明できる。 3. 教育についての歴史的に論じることができる。 4. 現代の教育問題についての関心を持ち、問題解決のための意見を述べるができる。	○	△	△				○				△
	教育社会学概論B	教育を社会事象のひとつとして客観的に捉える。	教育を社会事象のひとつとして客観的に捉え、説明することができる。				△	△				△	○	
	教育心理学概論B	「学び」の場の心理学・「学び」を促す心理学	1. 「育ち」と「学び」との関係、「育ち」に応じた「学び」の必要性、「育ち」を促す「学び」について説明できる。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における発達の特徴と発達課題、さらには環境移行において生じる問題について説明することができる。 3. 「学習」および「動機づけ」について学び、「学び」を促す環境や働きかけについて具体的に述べることができる。 4. 学習者の主体的な「学び」について説明することができる。また、学習者の主体的な「学び」や学習者同士の学び合いを促す環境・働きかけについて具体的に述べることができる。 5. 教育における学級集団作りの必要性、さらには、そこでの教師の役割や影響について説明することができる。 6. 支援者・教師としての専門性の向上を図る上で重要となる態度や取り組みについて述べることができる。	△	△					○	△		△	
	教職論B	学校において教師が行っている教育活動とその目的について学び、自分が目指す教師像について考える。	・教師は、学校職員の一員であり、服務に基づいて職務を遂行するというを理解できたか。 ・教員事故防止のためにはどのように行動すべきかを理解できたか。 ・教育課程の基本を理解し、教育実習に臨む心構えができたか。	○	◎						○			△

			・生徒指導・進路指導・安全教育・特別支援教育・人権教育等の現状と課題を理解できたか。 ・自分が目指す教師像についてしっかりと考えることができたか。															
	特別支援教育の基礎	特別支援教育の基本的な理念、障がい種に応じた指導内容・方法及び合理的配慮	1.特別支援教育の理念について説明することができる。 2.特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行うために、様々な障がいの状態について説明することができる。 3.合理的配慮、指導・支援の在り方によって、幼児児童生徒の活動や参加が可能となる(障がいの状態を軽くすることができる)ことについて事例をあげながら説明することができる。	○		○			○									△
専門 基幹 科目	教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む) B	教育方法の理論と実践	・知識情報、意見を説得的に伝える技術を身につける。 ・他者の意見を正確に聞き取り、論理的に判断できる。 ・教育方法についての理論を理解し説明できる。	△	△	○	○	◎										
A 群	教育相談の理論と方法B	教育相談の理論と方法の理解	1.中学校、高等学校において求められる教育相談の理論について説明できる 2.教育相談の方法についてロールプレイングなどの中で活用できる	△		○		○	△					△				△
	道徳の指導法B	道徳教育の歴史と指導の理論と実践	1.道徳教育の歴史についての基本的知識について説明できる。 2.道徳の基本的指導法を身につけて実践できる。	△		◎		○	△									◎
	特別活動の指導法B	・特別活動の意義と実践的な指導法。 ・豊かな人間形成を育む教育実践力を備えた教師をめざす。	・特別活動における望ましい集団活動が豊かな人間形成に重要な役割を果たしていることを理解する。 ・教育課程における特別活動の役割と意義を明らかにし、各活動の指導理念と実践的な指導方法を探る。	△	△	◎		△										△
	生徒指導・進路指導論B	学校現場における生徒指導並びに進路指導についての理解を深め、実践力を身に付ける。	学校において、教師と児童・生徒の信頼関係および児童・生徒相互の望ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、児童・生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことが出来るようにするにはどのようなことが必要かを考察する。また、いくつかの事例を通して、学生の意見・見解を問うこととする。さらに、進路についての意義と進学・職業観の育成を図る。	○		◎			△					△				○
	総合的な学習の時間の指導法 B	総合的な学習の時間の目標と内容を理解し、それを踏まえた具体的な指導法について実践力を身に付ける。	総合的な学習の時間の目標と内容を理解し、児童生徒が主体的に課題を捉え、効果的なプレゼンテーションなどが行えるようにするための、具体的な指導法の手立てなどを考え、実践することができる。			○	◎	○	○									
	教職実践演習	中・高等学校教員としての資質の確認を行い、教育現場での実践につなげることができるようにする。	これまでの教職に関する様々な学びが、教員としての資質能力として有機的に統合・形成され、実際の現場等で適用できる。				◎	◎	△	△				○	△			△
専門 基幹 科目 C 群	中等教育課程の意義と編成	学習指導要領に見る中学校・高等学校教育課程のポイントと今後の展望	○教育課程の法制や歴史から教育活動におけるその意義を理解できる。 ○現行学習指導要領の特徴を踏まえ、各教科における指導の重点を理解できる。 ○中学校・高等学校の学習指導要領のポイントを理解できる。 ○これからの学校教育の課題と展望についてしっかりと考えることができる。	○					△									○
	社会科の指導法 I (地理歴史)	中学校社会科の枠組みの理解と学習指導案の作成を踏まえた授業づくりの実際	①中学校社会科の現行学習指導要領のポイントについて理解する。②教科書に基づく指導内容について理解する。③学習指導案を作成できる。④学習指			○	◎		△									

		導案に基づく授業ができる。											
社会科の指導法Ⅱ（公民）	中学校社会科公民的分野の指導法の理論と実際	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科の目的及び内容について学習指導要領や実際の教科書から読み取ることができる。 ・中学校社会科公民的分野の学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 ・新聞記事や報道番組を活用して、時事問題に関する興味や関心を高めることができる。 		○	◎		△						
地理歴史科指導法	高等学校地理歴史科の指導内容と指導方法の習得	<ul style="list-style-type: none"> ①学習指導要領（地理歴史科）のポイントを述べることができる。 ②次期学習指導要領（地理歴史科）のポイントを述べるができる。 ③日本史・世界史・地理の指導の具体的展開と教材の取扱いについて理解し、授業づくりを進めることができる。 ④学習指導案（細案）を作成することができる。 ⑤模擬授業に基づいて、授業改善について考えることができる。 		○	◎		△						
公民科指導法	知識・技能の徹底をはかるとともに、思考力、判断力、表現力を高める授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 現行学習指導要領(主に公民科)の主な内容と現在改訂が進められている新学習指導要領の方向性について説明することができる。 ② 高等学校において現代社会、政治・経済、倫理の授業を担当する際に必要な知識・技能、教材研究や学習指導案の作成方法など、授業づくりの基礎的・基本的技能が身につけている。 ③ 模擬授業を通じて、授業を実際に行う上で必要なより実践的な授業技術に触れ、成果と課題を認識するとともに、課題改善の方向性を明確化できている。 		○	◎		△						
人文地理学	人文現象を幅広く理解するために、人文地理学の枠組みを紹介する。	前期では、人文地理学の諸分野（人口地理学、経済地理学、社会地理学など）について理解を深め、人文地理学の研究方法について学習する。後期では、人文地理学の一分野である観光地理学の研究分野について理解を深め、人文地理学の応用性について考察していく。			◎		△						
自然地理学	自然構成要素のメカニズムや分布を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ①身近な自然環境に対する興味・関心を持つようになる。 ②自然環境の基本的な仕組みを理解し、自然の景観の成り立ちや主な自然災害の要因が説明できる。 ③中学校社会科・高校地理歴史科での指導で求められる自然環境に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ④自然環境の保全と自然災害を回避するための適切な手段を判断し、行動できるようになる。 			◎		△						
地誌	地域の特徴をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ①日本や世界の諸地域に対する興味・関心を持つようになる。 ②具体的な地域の「地域性（地域的特色）」を説明できる。 ③中学校社会科・高校地理歴史科での指導の際求められる日本や世界の諸地域に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ④日本や世界の持続可能な発展に求められる適切な手段や方法を判断し、行動できるようになる。 			◎		△						
日本史概説	日本の政治・経済・社会・文化の歴史	日本史における国政上の制度や政治的な事象の変遷を探求しながら、国家と社会のあり方について修得すること			◎		△						
東洋史概説	中国を中心とする東洋史の概説	①歴史を学ぶことにどのような意味があるか説明できるようになる。											

		②日本と中国の交流の歴史を説明できるようになる。 ③歴史的に物を見る視点を獲得することで、東アジアの現況にも関心を抱けるようになる。			◎		△				
西洋史概説	中世ヨーロッパ世界はどのようにして成立し、変貌を遂げていったか。	中世ヨーロッパ世界の成立・発展に関して、自ら説明できる。			◎		△				
法学概論（国際法を含む）	教員のための法学概論	1)教員を目指す学生にとって、必要な法学的基礎知識を習得し、説明することができる。 2)現代の学校教育の中の課題について、法的視点から問題点を発見し対応ができる。 3)教育現場における具体的事例に対し、法的根拠に基づいた対応ができる。			◎		△				○
経済原論（国際経済を含む）	基礎的な経済理論を理解しよう。	①ミクロ経済学の理論が説明できる。 ②マクロ経済学の理論が説明できる。 ③練習問題（計算問題を含む）を解くことができる。			◎		△				
心理学概論	心理学の基本的事項を学ぶ	心理学の成り立ちのついて概観できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。 心理学で用いられる基礎的用語（基本的概念）を理解した上で、その言葉の日常的用法との違いを説明できる。 講義にて紹介された心理学概念・理論に対して、具体的な行動例を指摘することができる。 心理学を構成する下位領域から、異なる領域の概念を用いて1つの行動を説明することができる。			◎		△				
専門 発展 科目	障害児の学習支援 通常級の学級に在籍する障害のある幼児児童生徒への学習支援	知的障害及び発達障害のある子どもにおける認知機能の特徴を理解し、子どもの認知特性に配慮した合理的配慮の提供の仕方を理解することができる。			○	◎	△	○			△